

## ．学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	馬路村立馬路小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1		0	5	9
児童数	13	13	14	11	9	4	0	64	

## ．研究の概要

## 1．研究主題

課題に向かって、意欲的に取り組む児童の育成  
～学びタイムの指導を通して～

## 2．研究内容と方法

## (1) 実施学年・教科

- ・3年生から6年生までの算数（毎週1時間の「学びタイム」を設定）
- ・3年生を境に算数好きな児童が減少している現状がある。この時間で算数に対する児童の関心・意欲を高めたい。又、算数の基礎・基本の定着と向上にむけて、子どもたちが自発的、主体的に取り組もうとする態度を育てたい。

## (2) 年次ごとの計画

平成14年度

## テーマ

学びへの素地を育む「学びタイム」のあり方

## 研究の見通し（仮説）

課題に立ち向かうためには、まず、基礎・基本の習熟を含めた学びへの素地づくりが不可欠となる。複式・小規模校の特性を生かし、異学年児童が共に学び合うシステムの中で、学びへの確かなリズムを構築し、学びの素地をしっかりと育てていくことで意欲的な学びへの姿勢が育つのではないか。

## 研究内容・方法

- ・「学びタイム」とそのあり方
- ・課題克服に向けてのチャレンジシステム

平成15年度

## テーマ

学び方を知る「学びタイム」の指導

## 研究の見通し（仮説）

課題に向けて意欲的に取り組むためには、学び方（学びとり方）を知る必要がある。学びの中で分かったこと・分からないことを自覚させながら、子どもたちと共に分かる学び方、よりよい学び方を追求していくことでテーマに迫れるのではないか。

## 研究内容・方法

- ・学び方の手順と手法
- ・意欲を育む学ばせ方の工夫

テーマ

学ぶ楽しさを知る「学びタイム」の指導

研究の見通し（仮説）

意欲的に取り組む子は、豊かな問いや豊かな気づきをもつ子ではないだろうか。共に学び合う中で、問いや気づきを育み、対象（課題）への関わり方や解決の筋道を追求させることにより、自ら進んで学び、よりよく分かる子どもが育つのではないか。

研究内容・方法

- ・豊かな問いや気づきを育てる指導の手立て
- ・教え合い、考え合う学び方の工夫

（ 3 ） 研究推進体制

校長 - 教頭 - 研究全体会 - 学習部

．平成 15 年度の成果及び課題

1．研究の成果

学び方の定着に向け、手順や手法、また、意欲を育む学ばせ方の工夫を図りながら、「学びタイム」の見直しを図った。

【改善点】

- 100マス計算（方法の検討・時間の確保）
- 座席は縦割り班（縦割り班を学習活動の場でも）
- 1つのテーブルに先生を固定化（子どもは、班で毎週テーブルを移動）
  - ・一人の子どもへの支援時間の確保
  - ・子どもを知る（ふれあいチェック表の活用）
- 金シールの登場（学習意欲のさらなる向上を目指して）
- ノートの指導の改善（ノートをより分かりやすく・見返しの習慣化）
- 班での振り返り（「助け合いカード」の記入・班長を中心に）
- 班で発表（ローテーションで）
- 司会・進行役教員の輪番制（教師が同じ視点に立つために）
- 「学びタイム」終了後の反省会の質的向上（次のステップに向けて）
- 児童にアンケート（意識の変容を見る）

【成果】

学び方の手順を明確にしたことで、学習の仕方が徐々に身に付いてきた。知的好奇心や数学的な考え方を育てようと、2学期から、パズル的な図形問題を思考、解決する時間を設定したことで算数への興味・関心や思考力が高まってきた。

反復やつまずきのチャレンジにより「確かさ」が増し、共同して取り組むことでお互いに「思いやる気持ち」が育ってきた。また、他との競争を仕組みまず、自分のペースで取り組ませたこと、さらにシールの活用等により達成感が味わえたことで「意欲」の向上にもつながった。

## チャレンジテスト（正答率）

	学年	3年	4年	5年	6年
正答率	1回目	92.2%	92.0%	87.5%	83.5%
	2回目	97.9%	93.0%	97.8%	89.5%

正答率が上がり、基礎学力定着へ向けた取り組みの成果が表れた。

児童アンケートより  
学びタイムをふり返って答えて下さい。

項 目	はい	どちらでもない	いいえ
・集中してできている。	79%	18%	3%
・友達と教え合っていてできている。	74%	16%	11%
・自分の課題に取り組んでいる。	84%	13%	3%
・学びタイム以外にも自分で目標を決め取り組むようになった。	47%	26%	26%
・ノートの取り方が前より良くなった。	74%	21%	5%
・見返しをするようになった。	79%	18%	3%
・学びタイムは楽しい。	79%	16%	5%
・前よりミスが少なくなった。	84%	16%	0%
・前より算数が好きになった。	68%	21%	11%

\* 子どもたちの興味・関心・意欲が向上してきた。

## 2. 今後の課題

児童が課題解決に向け意欲的に取り組むためには、見通しを持ち、筋道を立てて考える力が必要になる。学び方のより一層の定着と合わせ、学びタイムの中で、また、授業との連携を通して、この力をどう育てていくかが今後の課題となる。

高学年になるに従い、履修内容が増え、全領域の復習に時間がかかり、そのため計算力の定着の面で不確かになる傾向が見られる。計算復習テストを定期的に導入するなど、計算力の習熟に努める必要がある。

## 学力把握のための学校の取り組み

名 称	調査の目的	時 期	備 考
C R T	到達度の把握 (全領域)	1学期	
チャレンジテスト (学校自作問題)	習熟度及び定着率の把握 (数と計算領域)	1学期 3学期	
児童アンケート	興味・関心・意欲・態度 についての実態把握	1学期 3学期	

## ・フロンティアスクールとしての研究成果の普及について

平成15年度第1回高知県学力向上推進協議会

日時：平成15年5月16日（金）13：00～16：40

場所：高知県教育センター本館

テーマ：高知県学力向上推進地域内における本事業の円滑な実施及びフロンティアスクール等における実践・研究の成果の普及を推進する。

対象：学力向上フロンティアスクールにおける本事業研究担当者各校1名、教育事務所及び高知市教育委員会の担当者各1名、市町村（学校組合）教育委員会職員等

平成15年度東部地区学力向上連絡協議会

日時：平成15年8月5日（火）9：20～16：50

場所：安田町文化センター

テーマ：各学校が、児童生徒の学力向上の取り組みを進めていくうえで、研究主任等の果たす役割が大きいと考えられる。

そこで、本協議会では、研究主任を対象として「子どもたちの幸せにつながる学力」について、研究協議等を行うことにより、各学校の基礎学力の定着と学力の向上に向けた取り組みの質的向上を図る。

対象：東部教育事務所管内公立小・中学校の研究主任又は研究担当教員

学力向上フロンティア事業

平成15年度第1回東部地区学力向上推進協議会

日時：平成15年9月4日（木）13：30～16：40

場所：のいちふれあいセンター

テーマ：学力向上フロンティア事業では、新学習指導要領のねらいとする児童生徒の「確かな学力」の向上のため、個に応じた指導方法・指導体制の工夫改善など、児童生徒一人一人の実態に応じたきめ細かな指導の一層の充実を図るための実践研究を推進していくことを目的としている。この地区推進協議会では、上記趣旨のもとに、東部地区での学力向上フロンティアスクール等の取り組みの成果を情報交換、協議すると共に管内全小中学校への普及を図る。

対象：東部管内学力向上フロンティアスクール研究担当者各校1名、東部管内各市町村（学校組合）学力向上推進委員

文部科学省「学力向上フロンティアスクール」指定校（2年次）

学習活動（学びタイム・算数科授業）公開

日時：平成15年11月18日（火）13：30～16：40

場所：馬路村立馬路小学校

テーマ：課題に向かって意欲的に取り組む児童の育成  
～学びタイムの指導を通して～

対象：安芸郡管内小中学校教職員、保護者、地域住民、教育関係者等

学力向上フロンティア事業

平成15年度第2回東部地区学力向上推進協議会

日時：平成16年2月3日（火）13：30～16：40

場所：香我美町町民会館

テーマ：学力向上フロンティア事業では、新学習指導要領のねらいとする児童生徒の「確かな学力」の向上のため、個に応じた指導方法・指導体制の工夫改善など、児童生徒一人一人の実体に応じたきめ細かな指導の一層の充実を図るための実践研究を推進していくことを目的としている。この地区推進協議会では、上記趣旨のもとに、東部地区での学力向上フロンティアスクール等の取り組みの成果を情報交換、協議すると共に管内全小中学校への普及を図る。

対象：東部管内学力向上フロンティアスクール研究担当者各校1名、東部管内各市町村（学校組合）学力向上推進委員

平成15年度第2回高知県学力向上推進協議会

日時：平成16年2月20日（金）13：30～16：40

場所：コンフォートホテル高知駅前

テーマ：高知県学力向上推進地域内における本事業の円滑な実施及びフロンティアスクール等における実践・研究の成果の普及を推進する。

対象：学力向上フロンティアスクールにおける本事業研究担当者等  
教育事務所及び高知市教育委員会の担当者等  
市町村（学校組合）教育委員会職員等  
国・公・私立小中学校の教職員及び保護者等

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】 15年度から新規校  14年度から継続校

【学級規模】  6学級以下 7～12学級  
13～18学級 19～24学級  
25学級以上

【指導体制】 少人数指導  T・Tによる指導  
一部教科担任制  その他

【研究教科】 国語 社会  算数 理科  
生活 音楽 図画工作 家庭  
体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】  有り 無し